

B C級（オランダ裁判関係）ポントティアナツク裁判  
第十三号事件

（十三名）

本資料は閲覧用です

平11
法務
4B

ポ・14×T.17 No. 10

# 起 訴 状

ボンチャナック刑務所

現住所

	(求 刑)		(判 決)	
海 軍 大 尉	死 刑	岡 島 利 善	死 刑	当 4 2 年
海 軍 上 等 兵 曹	"	宮 島 順 吉	"	当 3 2 年
海 軍 上 等 兵 曹	"	小 島 五 一	"	当 3 0 年
海 軍 上 等 兵 曹	"	福 沢 健 治	1 5 年	当 3 8 年
海 軍 上 等 兵 曹	"	鶴 見 俊 二	死 刑	当 3 2 年
海 軍 上 等 兵 曹	"	金 子 安 藏	"	当 3 1 年
海 軍 一 等 兵 曹	"	久 世 一 雄	"	当 3 1 年
海 軍 一 等 兵 曹	"	山 本 安 一	"	当 4 3 年
海 軍 一 等 兵 曹	"	伊 藤 安 太 郎	2 0 年	当 3 7 年
海 軍 一 等 兵 曹	"	柘 植 義 藏	1 8 年	当 4 4 年
海 軍 一 等 兵 曹	"	障 子 正 喜 知	1 5 年	当 2 7 年
海 軍 二 等 兵 曹	"	野 尻 豊	1 0 年	当 2 5 年
海 軍 水 兵 長	"	坂 井 清 一	1 0 年	当 3 8 年
海 軍 水 兵 長	"			

ボンチャナック臨時軍法会議法廷に於て右記被告等の本事件に関する調書は読み上げられたり。

上記の如き氏名並に階級を有する全被告等は和蘭・日本戦争期間中に於て全員又は其の一部は西ボルネオ州ボンチャナック所在の海軍特別警察隊に勤務なし、目下ボンチャナック軍監獄内に収容しあり。

上記調書に依り本被告等に対する罪状は明白となれり。

## 1 起訴者中最初の岡島利善は

(イ) 昭和19年7月29日より同20年9月2日に至る間、即ち、和蘭・日本戦争期間中日本臣民として西ボルネオ州ボンチャナック及各地に於て警備隊長並に特警隊長として戦争規定に反する犯罪を犯したり。即ち

1. 不法逮捕
2. 市民の虐待
3. 殺戮並に自らによる殺害
4. 少女、婦女の強制売淫

(1) 本被告は昭和19年8月より同20年2月に至る期間中、自ら進みて特警隊に命じて日本政府に反抗する陰謀事件の被疑者約250名を特警隊に依りて逮捕せしめ、且上記の逮捕をなし又はなす際に於ては自ら不当なりと知り又は之を知り得べかりしに拘らず其の逮捕を命じたり。

尚本被告は最初に逮捕せられたる容疑者等が取調に際し日本政府に対して反抗すべき陰謀なきこと明なるに拘らず拷問によりて自白せしめて作成せる調書に基づき何等反抗すべき事実なきことを知り乍ら其の逮捕をなしたるものなり。

(2) 特警隊が被逮捕者の取調を行ひたる際杖・牛のチンボ其の他の器具を用ひて拷問を行ひ又は之を行はんとする意図を有したり。

又被逮捕者に対し鼻・口より水を注入して呼吸困難に陥らしむる水責めをなし或は又彼等の全員に電流を通ずる電気責めを行ひたり。

而して多数の被逮捕者が特警隊員によりて之等の拷問を受けたることは被告は之を知り又は知り得べかりしなり。

(3) 本被告は昭和19年12月中旬より同20年3月に至る期間中に於て自ら特警隊及警備隊に命じ上述せる被逮捕者約170名を殺害すべく命じたり。

而して右受刑者中17名はスラバヤ軍法会議に依り死刑の執行を命ぜられたるものなるも之等を除く他の全部は何等斬首により殺害すべき根拠なきものなり。

(4) 本被告は昭和19年6月29日より同20年9月2日に至る期間中に於て特警隊が強制売淫をなさしむる目的を以て彼女等の意志に基づかずして少女婦人を拉致せるを黙認せり。而して右期間中「リム・ソインゴ」 「ニョー・ペクヒャ」の如きは特警隊に拉致せられたる上慰安所に入所せしめられ強制的に淫売婦となさしめられたり。

又本被告は石山有三郎に対しカタパンの少女・婦人等をポンチャナックに連れ来り慰安所に入所せしむべく命じたり。其の命により20名の少女・婦人等は自己の意志に基づかずしてカタパンよりポンチャナックに送られ慰安所に入所せしめられたる上強制的に淫売婦たらしめたり。

(ロ) 本被告は日本臣民として和蘭・日本戦争の期間中の昭和20年8月6日、西ボルネオ州ポンチャナック地区スンガイドリアン飛行場付近に於て戦時規定に反し左記の如き犯罪を犯せり。

即ち本被告は右に記載せる場所及期日に於て、中谷の殺害事件に関する容疑者たる森林係「マンブウ」なるものを斬首に処すべく船中に於て熟考せる上自ら正当なる法規に基づかずして之が執行をなせり。

(ハ) 本被告は昭和20年8月17日頃即ち和蘭・日本戦争期間中、日本臣民として西

ボルネオ州ポンチャナック並に他の地区に於て左記の如き戦時規定に反する犯罪を犯したり。

即ち被告は上述の期間並に場所に於て多数者の殺戮及殺害を行ひ、サンガウ日本海軍派遣隊の指揮者たる佐野五月よりダイヤ騷擾事件に参加せる6名のダイヤ人の処置につき訴へ来りたる処、彼等を殺害すべき何等の根拠なきに拘らず之を殺害すべき許可を与へたり。其の許可に依り上記6名のダイヤ人の内5名は昭和20年8月22日サンガウの町に於て斬首刑に処せられたり。

## 2 起訴者

- |         |          |         |         |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 宮島順吉 | 2. 伊藤安太郎 | 3. 久世一雄 | 4. 山本安一 |
| 5. 福沢健治 | 6. 鶴見俊二  | 7. 柘植義蔵 | 8. 金子安蔵 |

被告宮島は昭和17年12月15日より、同伊藤は同18年8月より、同久世は同18年9月より、同山本は同18年12月より、同福沢・鶴見・柘植は同19年1月より、金子は同年4月7日より昭和19年7月1日に至る間即ち和蘭・日本戦争期間中、海軍特別警察隊に勤務し西ボルネオ州ポンチャナック及他の地区に於て左記の如き戦時規定に反する犯罪を犯したり。即ち

1. 不法なる逮捕
2. 市民の虐待
3. 多数者の殺戮

上述せる各行為は被告等が自ら之を行ひたると或は被告等が自ら進みて之等の行為をなすべく援助したるとを問はず或は又仮令海軍特警隊の指示に依り之を為したりとするも何れも特警隊員として連帯責任を負ふべきものにして、既に殺害せられたる中谷につきても同様なり。

凡そ特警隊によりてなされたる之等の各行為は連帯責任者として責任を負ふべきものにして、起訴者の各個人は特警隊員となりたる時より特警隊の責任を負ふべきなり。各被告は特警隊の指示により又警備隊員の援助の下に昭和18年9月より同19年5月に至る間、日本政府に反抗せんとする計画ありとなす陰謀事件の被疑者合計約1,100名の人々を何等の根拠なきに拘らず逮捕し而もその逮捕は確實なる根拠に基かず取調の際陰謀容疑者を拷問に付してなさしめたる陳述を起訴にして逮捕せるものなり、其の後に於ても右記の人々が日本政府に反抗する事実なきは明なり。

容疑者の多くは杖・牛のチンポ又は其の他の器具によりて殴打拷問せられ、或は口・鼻より水を注入せられ呼吸困難に陥るの拷問を受け或は又電流を身体に通ずるが如

き拷問を受け更に又手を縛りて吊り上ぐる拷問を受くる等の故意の行為によりて自白を強要せしめられたるものなり。

又昭和19年2月より6月末に至る期間内に於て約1,000名の容疑者中、日本軍法会議に依りて死刑の宣告を受けたる48名を除く他の全員をマンドールに於て斬首殺害せり。即ち宮島順吉は2名、久世一雄は3名、山本安一は3名、金子安蔵は2名を夫々斬首せり。

而して右に記載せる者以外の者は屢々マンドールに赴き殺戮行為の監視者として参加せり。

### 3 起訴者

- |          |          |         |         |
|----------|----------|---------|---------|
| 1. 宮島順吉  | 2. 伊藤安太郎 | 3. 久世一雄 | 4. 山本安一 |
| 5. 福沢健治  | 6. 金子安蔵  | 7. 坂井清一 | 8. 野尻豊  |
| 9. 障子正喜知 | 10. 小島五一 |         |         |

右に列記せる被告中(1)宮島より(6)金子に至る6名は昭和19年7月1日より同20年9月2日に至る期間内に、又野尻並に坂井の兩名は昭和19年9月18日頃より、障子は同19年11月15日より、小島は同19年12月より、夫々同20年9月2日に至る期間内に全員特警隊員として同隊に勤務し、和蘭・日本戦争期間中日本臣民として西ボルネオ州ポンチャナック及他の地区に於て左に記載せるが如き戦時規定に反する犯罪を犯したり。

1. 不法なる多数市民の逮捕
2. 市民の虐待
3. 多数市民の殺戮

上述せる各行為は被告等が自ら之を行ひたると又は自ら進みて援助をなしたるとを問はず或は又特警隊の責任上之を行ひたるとを論ぜず何れも特警隊員として連帯して責任を負ふべき犯罪なり。既に殺害せられたる中谷につき亦同じ。

凡そ特警隊として行ひたる犯罪は何れも之等起訴者にとりては一個の犯罪として連帯責任を負ふべきものなり。然し乍ら起訴者各個人に付ては特警隊が警備隊又は警察の援助に依り昭和19年8月より同20年2月頃に至る期間内に於て行ひたる犯罪中特警隊員は上記各自の勤務期間中の犯罪につき夫々責に任ずべきものなり。

既に岡島利蕃につき明示したるが如く、合計約250名を逮捕し且之等の者に上記の如き拷問を行ひ又昭和19年12月中旬より同20年3月に至る期間に於て上記の被逮捕者中約170名をスンガイドリアン飛行場付近にて斬首殺害せり。

而して金子は2名を、小島は1名を夫々斬首し、之等以外の他の者はスнгаイドリアンに赴き数回に亘りて処刑現場の警戒の任に当りたり。

4 起訴者

- |         |           |          |          |
|---------|-----------|----------|----------|
| 1. 宮島順吉 | 2. 小島五一   | 3. 福沢健治  | 4. 鶴見俊二  |
| 5. 金子安藏 | 6. 久世一雄   | 7. 山本安一  | 8. 伊藤安太郎 |
| 9. 拓植義藏 | 10. 障子正喜知 | 11. 野尻 豊 | 12. 坂井清一 |

右被告等は既に第2項及第3項に述べたる如く、特警隊員として和蘭・日本戦争期間中日本臣民として左記の如き犯罪を犯したり。即ち

被告等は少女・婦人に強制売淫を為さしむる目的を以て拉致せり。

右犯罪は各被告自身が犯したると、之を行ふにつき自ら進みて助力をなしたると或は又特警隊として為したるとを問はず、被告等は必ず其の責を負ふべきなり。

而して右犯罪は特警隊員に依りて行はれたるものにして既に殺害せられたる中谷につき亦同様にして、凡そ特警隊によりて為されたる犯罪は全部一括して之を起訴すべきものとす。

但し被告各個人につきては特警隊が上述の犯罪を行ひたる期間中に被告各自は特警隊員として同隊に勤務せる期間内の行為につき責を負ふべきものとす。

被告等は昭和18年11月より同19年末に至る期間中「ベルザ・ボン・フウイティン」、「リカ・タン・アポー」、「ネリチウン・クエ・ファー」、「ファミ・チェン・ヒー」、「ボンアキム」、「ボンアキオ」、「リム・ソイ・ゴオー」及「ニュー・ベック・ヒヤ」其の他カタパン地区より少女・婦人20名を拉致し来たり慰安所に入所せしめて売淫を強制せり。而して上述の少女及婦人中、最初に掲げたる氏名の3名を除く他の全部は慰安所に入所して強制売淫をなさしめられたること明白なり。

- 5 被告小島五一は昭和20年8月22日即ち和蘭・日本戦争期間中に於て、日本臣民として西ボルネオ州サングウスカダウ地区サングウの町に在るカプアス河沿ひの棧橋に於て左記の如き戦時規定に反する犯罪を犯したり。

多数者の殺戮又は殺害

即ち上記の場所並に期日に於て佐野五月及他のサングウ警備隊員と共に正当なる裁判に付せざるダイヤ人5名を斬首殺害せり。即ち本被告並に他の4名の日本人は特警隊長岡島利蕃の承諾を得何等正当なる方法に依らずして各自1名宛ダイヤ人を斬首殺害せり。

敍上の行為は何れも1946年発行官報45号第4条・第5条・第9条及第10条並

に1946年発行官報44号第1条第34項・第4項・第1項及第7項に準拠して処罰すべきなり。

昭和21年9月16日ポンチャナック臨時軍法会議検事調書に依り被告岡島利善及宮島順吉は昭和21年1月23日より、小島五一は同年1月26日より、福沢健治及鶴見俊二は同年1月24日より、金子安蔵は同年1月23日より、久世一雄及山本安一は同年1月24日より、伊藤安太郎は同年1月24日より、柘植義蔵は同年1月29日より、障子正喜知は同年2月4日より、野尻 豊及坂井清一は同年1月26日より、夫々の逃亡を考慮し引続き収容せり。

昭和21年発行官報47号第6条に依り被告岡島利善、宮島順吉、小島五一、福沢健治、鶴見俊二、金子安蔵、久世一雄、山本安一、伊藤安太郎、柘植義蔵、障子正喜知、野尻 豊及坂井清一の13名は昭和21年11月26日午前8時中華戲院に於てポンチャナック臨時軍法会議に付すべく決定す。

昭和21年11月16日ポンチャナック臨時軍法会議検事作成

ミスター・エーサー・ブルンス

Pro Justitia.

B e s c h i k k i n g e n .

De Auditor Militair bij den Temporairen Inlandsraad te Pontianak.

Gelesen de stukken van Vooronderzoek in de strafzaak tegen:

- |                       |                                   |    |
|-----------------------|-----------------------------------|----|
| 1. Okajima Riki,      | van beroep Kapitein b/d Jsp. Mar. | 42 |
| 2. Miyajima Junichi,  | " sgt. Maj.                       | 32 |
| 3. Kojima Goichi,     | " "                               | 30 |
| 4. Furusawa Kenji,    | " "                               | 28 |
| 5. Tsurumi Shunji,    | " "                               | 22 |
| 6. Kaneko Yasuo,      | " "                               | 31 |
| 7. Kase Kazuo,        | sgt.                              | 31 |
| 8. Yamamoto Isenichi, | " "                               | 43 |
| 9. Ito Yasutaro,      | " "                               | 37 |
| 10. Tsuge Yoshio,     | " "                               | 44 |
| 11. Shoji Masachichi, | Korp.                             | 27 |
| 12. Wajiri Yutaka,    | Str. iekl.                        | 25 |
| 13. Sakai Seisichi,   | " "                               | 33 |

allen, gedurende den oorlog tusschen het Koninkrijk der Nederlanden en Japan, in de achter elk nummer namen vermeld van de rangen, geheel of gedeeltelijk werkzaam geweest zijnde bij de Toketai of Speciale Marine Politie, binnende de residentie Westerafdeling van Borneo, thans sedert de residentie Westerafdeling te Pontianak.

Overwegende, dat blijkens genoemde stukken Senoeg-zame bewaren tegen bovengemelde personen zijn geresen.

I. Ten aanzien van late beklagde : OKAJIMA RIKI.

A. dat hij: Japansch onderdaan zijnde, van 29 Juli 1944 tot 2 September 1945, derhalve ten tijde van den oorlog tusschen Nederland en Japan, te Pontianak en elders in de residentie Westerafdeling van Borneo, zich heeft schuldig gemaakt aan de hieronder nader te omschrijven feiten, welke een schending opleveren van de wetten of gebruiken van den oorlog, t.w.:

1. ongewettigde massa-arrestatie.
2. foltering van burgers.
3. massa-moord en moord.
4. wegvoering van meisjes en vrouwen voor dwongen prostitutie.

hebbende hij, als commandant van het garnizoen (Keibitai) en van de Speciale Marine Politie (Toketai),

1e. tusschen ongeveer Augustus 1944 en Februari 1945, opzettelijk aan den Toketai opdracht gegeven tot de arrestatie van in totaal ongeveer 250 personen, die ervan verdacht werden, een complot te hebben beraamd tegen het Japansche gezag, dan wel, wetende, althans redelijkerwijs moettende vermoeden, dat deze massa-arrestatie in dien tijd door den Toketai

tai gedaan werden, of zouden worden gedaan, te herfst zijnde deze massa-arrestatie ongewettigd geweest, en dat de beklagde niet op zeer loofbare gronden gedaan hebben, immers deeselve geheel plaatsa toevoeren naar aanleiding van hetgeen door de eerst verachte en opverfde personen bij hunne verhooren onder tortuur was verklaard, zijnde tot verre niet gebreken van de daarreestere personen beraamd complot tot ernstig dadwerkelijk verzet tegen de Japansche bezetter;

2e. in datzelfde tidsrek, wetende, althans redelijkerwijs moettende vermoeden, dat de Toketai bij arrestatie van deze arrestanten vele van hen folterde, of zou folteren, door ze met stokken, bull-roepen of andere voerwerpen te slaan op hen de waterkur toe te passen, door hun water in de neus of in den mond te steken, langdurige waartoe zij dwarsden te stikken, of de electriciteitskur op hen toe te passen, door een electriche stroom door hun lichaam te laten gaan, alles met de bedoeling om deze personen bekantenis te ontwingen en hun verklaringen te ontkennen;

3e. tusschen ongeveer midden december 1944 en maart 1945 opzettelijk aan de Toketai en in de Keibitai opdracht gegeven tot executie van ongeveer 170 van die bovengemelde arrestanten, zijnde deze op 17 personen na, die door den Inlandsraad te Soerabaja op de stukken ter dood veroordeeld zijn, zonder eenigen vorm van proces bij het vliegveld Soerabaja te worden onthoofding verwoerd;

4e. tusschen 29 Juni 1944 en 2 September 1945, wetende, althans redelijkerwijs moettende vermoeden, dat de Toketai meisjes en vrouwen tegen haar wil wegvoerde voor Sedwongen prostitutie, deze feiten te witteveld, te Steede de Toketai o.a. in dien tijd: LKA 501/50, 1000 P.M. d. a. wegvoerd, haar in een bordeel geplaatst enmalig tot prostitutie gedwongen en hebbende hij in Januari 1945 50000 opbracht te geven om uit Ketapang meisjes en vrouwen naar Pontianak te brengen om ze daar in bordeelen te plaatsen, zijnde ingevolge deze opdracht een twintigtal, althans een aantal vrouwen en meisjes tegen haar wil uit Ketapang naar Pontianak gezonden en daar in bordeelen geplaatst en alsoo tot prostitutie gedwongen.

B. dat hij: Japansch onderdaan zijnde, op 6 Augustus 1945, derhalve ten tijde van den oorlog tusschen eerland en Japan bij het vliegveld te Coengeloerian, onderafdeling Pontianak, residentie Westerafdeling van Borneo, zich heeft schuldig gemaakt aan het hieronder nader te omschrijven feit, hetwelk een schending oplevert van de wetten of gebruiken van den oorlog en wel aan boord, hebbende hij ten tijde en ter plaatse als bovenvermeld, na te voren in Kalimantan leg het plan daartoe te hebben beraamd, ter uitvoering van dat plan demantri van het Boeswelen Manboe, die ervan verdacht werd de hand te hebben gehad in den moord op Makatani, opzettelijk van het leven beroofd door hem zonder eenigen vorm van proces te onthoofden.



C. dat hij: Japansch onderduan zijnde, op of omstreeks 17 Augustus 1945, derhalve ten tijde van den oorlog tusschen Nederland en Japan, te Fontinaak dan wel elders in de residentie Westerafdeling van Borneo, zich heeft schuldig gemaakt aan het hiersonder nader te omschrijven feit hetwelk een schending oplevert van de wetten of gebruiken van den oorlog en wel aan massasmoord of moord door ten tijde en ter plaatse voornoemd, aan Sano Satsuki den Commandant van het Japansche garnizoen te Sandaun toestemming te verleen tot het zonder eenigen vorm van proces executeren van een zestal Dejakkers, die er door Sano voornoemd van verjaacht werden deel te hebben genomen aan den sajak-opstand aldaar, zijnde ingevolge deze toestemming, vijf van die zes sajakkers op 22 Augustus 1945 te Sandaun door othoofding vermoord.

- II. Ten aanzien van de beklaagden: MIYAJIMA, ISAMOTO, ITO YASUHIRO, KASE KAZUO, YAMAJIMA JUNKICHI in elk geval twee, KASE MASUO ARIE, YAMAMOTO YASUICHI twee, TSURUMI SAMUJI ARIE en KANEKO YASUZO twee personen (tharfa en zijnde de overigen) met name de Japansch naar Mandor om daar bewakingsdiensten bij te expedieeren te verrichten.

dat zij: Miyajima van 15 december 1942 af, Ito van augustus 1943 af, Kase van september 1943 af, Isamamoto van december 1943 af, Tsurumi van augustus 1944 af en Kaneko van 7 april 1944 af, allen tot 1 juli 1944 ingedeeld bij de speciale Marine politie, ten tijde van den oorlog tusschen Nederland en Japan, alle Japansche onderduan zijnde, te Fontinaak en elders in de residentie Westerafdeling van Borneo, zich hebben schuldig gemaakt aan de hiersonder nader aan te geven feiten, welke een schending opleveren van de wetten en gebruiken van den oorlog, t.w.:

1. ongewettigde massasmoord.
2. foltering van burgers.
3. massasmoord.

hetzij doordat zij deze feiten persoonlijk hebben begaan, hetzij zij daarbij opzettelijk behulpzaam zijn geweest, hetzij dat hun als zijnde ingedeeld bij de speciale Marine politie (Toketai), deze feiten toezerkend moeten worden, aangezien ze begonnen zijn door het personeel van die Toketai, onder wie ook de reeds vermoorde Sakatani die Toketai, onder wie ook de reeds vermoorde Sakatani die Toketai, dat die feiten aan die groep als geheel moeten worden toegerekend echter voor ieder van hen slechts van het oogenblik af dat zij bij de Toketai zijn ingedeeld, hebbende zij alsoo met behulp van de militairen van het garnizoen en met behulp van de politie in de periode van september 1943 tot Mei 1944 in totaal ongeveer 1100 personen, die ervan verdacht werden een complot te hebben beramd tegen het Japansche gezag, gearresteerd, zijnde

deze massasmoordstudies ongewettigd geweest, aangezien ze naar beklagden wisten op zeer losse gronden gedaan werden, immers dezelve vrijwel geheel plaats vonden en de aansluiting van hetgeen door de het eerst terzake van dit complot verdachte en opgespakte personen bij hante verhooren onder tortuur was verklaard zijnde ook later nimmer iets bleken van een door deze personen beramd complot tot enig da werkelijk verzet tegen de Japansche bezetters en velen van hen gefolterd door ze opzettelijk met stokken, bullepezen of andere vwrwerpen te slaan, op hen de weterkeur toe te passen door hun water in de neus of in de mond te gieten, tegevolge waarvan zij drieën den te stikken of de electriciteit te geven op hen toe te passen door een elektrische stroom door hun lichaam te laten gaaan of wel door hen aan de munden of de armen met touwen op te hangen altes met de bedoeling om deze personen te bekeeten te ontvrijen en hun verklaringen te ontlokken en in de periode van begin Februari tot eind Juni 1944, ongeveer 1000 van hen, zonder eenigen vorm van proces, behalve toevoren 48 van deze personen door een Japanschen ar-igraad te worden gedeeld waren, op Mandor door onthoofding vermoord, hebbende Miyajima Junkichi in elk geval twee, Kase Masuo Arie, Yamamoto Yasuichi twee, Tsurumi Samuji Arie en Kaneko Yasuzo twee personen (tharfa en zijnde de overigen) met name de Japansch naar Mandor om daar bewakingsdiensten bij te expedieeren te verrichten.

III. Ten aanzien van de boks: Zien: Bijlage 1 - 1944 en 2 - 1945

7 April 44 - 15 July 44

dat zij: de zes eerstgenomden, tusschen 1 Juli 1944 en 2 September 1945, ojiiri en sukai resp. van 18 tot eind augustus 1944 af, Shoji van 15 november 1944 af en Sojima van December 1944 af, de laatstgenomde allen tot 2 september 1945 ingedeeld bij de speciale Marine politie (Toketai), derhalve ten tijde van den oorlog tusschen Nederland en Japan, allen Japansche onderduan zijnde, te Fontinaak en elders in de residentie Westerafdeling van Borneo, zich heb en schuldig gemaakt aan de hiersonder nader aan te geven feiten welke een schending van de wet en de gebruiken van den oorlog opleveren, t.w.:

1. ongewettigde massasmoord.
2. foltering van burgers.
3. massasmoord.

hetzij doordat zij deze feiten persoonlijk hebben begaan, hetzij doordat zij daarbij opzettelijk behulpzaam zijn geweest, hetzij doordat hun als zijnde ingedeeld bij de speciale Marine politie (Toketai) deze feiten toezerkend moeten worden aangezien ze begonnen zijn door het personeel van de Toketai, onder wie ook de reeds vermoorde Sakatani en wel op zoodanige wijze in het kader der werkzaamheden die Toketai, dat die feiten aan die groep als geheel moeten worden toegerekend echter voor ieder van hen slechts van het oogenblik af dat zij bij de Toketai zijn ingedeeld, hebbende zij alsoo met behulp van de militairen van het garnizoen en met behulp van de politie in de periode van september 1943 tot Mei 1944 in totaal ongeveer 1100 personen, die ervan verdacht werden een complot te hebben beramd tegen het Japansche gezag, gearresteerd, zijnde

zodanige wijze in het kader van de werkzaamheden van de Toketai, dat die feiten aan die Groep als geheel moeten worden toegerekend echter voor ieder van hen slechts voorzover deze deelneemende zijn in de periode dat hij bij de Toketai ingedeeld was, hebbende zij alzoo met behulp van de medewerking van het Garnizoen en met behulp van de politie in de periode van Augustus 1944 tot ongeveer februari 1945 zooda als boven ten aanzien van Okajima Miki kader is aangegeven in totaal ongeveer 250 personen gearresteerd en velen van hen op de da omschreven wijze gefolterd en tuschen midden December 1944 en Maart 1945 ongeveer 170 der gearresteerden bij het vliegveld Soongei Doerian door onthoofding vermoord, hebbende Kaneko Yasuzo in elk geval twee en Kojima Goichi een persoon onthoofd zijnde de overlijden samen met Soengei Doerian meedegeeft om de r bewakingsdiensten bij de executies te verrichten.

- IV. Ten aanzien van de volgende personen:
- 1. OKAJIMA MIKI
  - 2. KOJIMA GOICHI
  - 3. FUKUZAWA KENJI
  - 4. TSURUMI SHUNJI
  - 5. KANEKO YASUZO
  - 6. KANE KAZUO
  - 7. YAMAMOTO YASUICHI
  - 8. ITO YASUTARO
  - 9. TSUGE YOSHIO
  - 10. SHOJI ASAKICHI
  - 11. KOJIRI YUTAKA
  - 12. SAKAI SEICHI

dat zij: zooda als sub II en III is aangegeven, ingesloten bij de Speciale Marine Politie (Toketai), de halve ten tijde van den oorlog tuschen Nederland en Japan, allen Japansche onderdanen zijnde, zich hebben schuldig gemaakt aan:

wegvoeren van meisjes en vrouwen voor zeevongelen prostitutie.

hetzij doordat zij dit feit persoonlijk hebben begaan, hetzij doordat zij daarin opzettelijk behulpzaam zijn geweest, hetzij doordat hun, als zijnae ingedeeld bij de Speciale Marine Politie (Toketai) dit feit toegerekend moet worden aangezien het begaan is door het personeel van die Toketai, onder wie ook de reeds vermaarde Makutani en wel op zoodanige wijze in het kader der werkzaamheden der Toketai, dat uit feit, aan die groep als geheel moet worden toegerekend, echter voor ieder van hen slechts voorzover is deelgenoot in de periode dat hij bij de Toketai ingedeeld was, hebbende zij, tuschen November 1943 en einde 1944 o.m.: Soetha Soeng Moer Lin, Haka Tan Koo, Lin Coy Koo en Wie Pa, Soem Tjeng Hie, Boen A Kiu, Soeng Koo, Lin Coy Koo en Ito Tak Hia en een twintigtal vrouwen en meisjes uit het Nederlandsche wegevoerd om ze in een bordeel te plaatsen en tot prostitutie te dwingen, zijnde deze meisjes en vrouwen met uitzondering van de drie eerstig noemde ook inderdaad in een bordeel geplaatst en tot prostitutie gezwongen.

V. Ten aanzien van den 3den beklagde: KOJIMA GOICHI, dat hij: Japansch

Japansch onderdanen zijnde, op 22 Augustus 1945, dertienalf ten tijde van den oorlog tuschen Nederland en Japan, op een steiger aan den oever van de Lapomas-Rivier te Banggau, onderscheffing Sanggau en Sekadon, residentie bestuursdeeling van Bornoe, zich schuldig heeft gemaakt aan het hiernaar later te omschrijven feit, metwelk tevens samenhangende de wetten of gebruiken van den vorlog oplevert, t.w.:

massa-moord, alzoo als moord.

door ten tijde en ter plaatse voornoemd, tezamen met Juko Satsuki en een dertigtal andere Japanners van het garnizoen van Sanggau, vijf Jagers, die evenzoo verlicht worden als de nemans in den buisk-opstand aldaar, met Geesvinden van den Commandant van de Toketai, Okajima Miki, zooda als erigen vorm van proces, door onthoofding te vermoorden, hebbende de verdachte en de vier bovengenoemde Japanners ieder een afzonderlijke ontboord.

welke feiten opleveren een schending van de wetten en Gebruiken van den oorlog en omschreven en strafbaar gesteld zijn bij artt. 4, 5, 9 en 10 van de ordonantie strafrecht oorlogsmisdrijven (Stbl. 1945 no. 45) Jo. art. 1 o. 34, 4, 1 en 7 van de ordonantie misdrijven (Stbl. 1945 no. 44).

Overwegende, dat uit de verklaring no. 16 d.d. 15 Maart 1946 van den Auditor Militair bij den Commandant van de 1ste Divisie te Pontianak blijkt, dat de versachten:

- 1. Okajima Miki seest den 23en Januari 1946
- 2. Miyajima Junkichi " " " " " "
- 3. Kojima Goichi " " " " " "
- 4. Fukuzawa Kenji " " " " " "
- 5. Tsurumi Shunji " " " " " "
- 6. Kaneko Yasuzo " " " " " "
- 7. Kane Kazuo " " " " " "
- 8. Yamamoto Yasuichi " " " " " "
- 9. Ito Yasutaro " " " " " "
- 10. Tsuge Yoshio " " " " " "
- 11. Shoji Asakichi " " " " " "
- 12. Kojiri Yutaka " " " " " "
- 13. Sakai Seichi " " " " " "

in der oost zijn verbleven.

Overwegende, dat er uitleiding bestaat verdachten wegens gevaar voor ontvluchting in verzekerde bewaring te houden.

Weg het op par. 6 van Stbl. 1946 no. 47.

B e c h i k e n d e :

Verwijst de beklagden:

- Okajima Miki
- Miyajima Junkichi
- Kojima Goicho
- Fukuzawa Kenji
- Tsurumi Shunji
- Kaneko Yasuzo

Kuse Kasuo  
Yamamoto Yasuicho  
Ito Yasutaro  
Teuge Yoshio  
Shoji Masakichi  
Nojiri Yutaka  
Sakai Seichichi

naar den Temporairen Krijgsraad te Pontianak.

Bepa lt, dat de zaak voor den Temporairen Krijgsraad zal dienen op den 24<sup>en</sup> November 1946, des voormiddags ten 10. ure, in het Chung Hwa Theater.

Aldus gedaan te Pontianak, den 22<sup>en</sup> November 1946.

De Auditeur Militair voornoemd,

*E. C. Bruins*  
(Mr. E. C. Bruins).